



株式会社 黒松製材建設
リフォーム部 梅本 優花 さん

木の良さを広げたい
株式会社黒松製材建設は、昭和5年に鹿屋市で創業した会社で、現在は新築住宅の建設やリフォームなどの建築工事と土木工事を行っています。また、弊社で木材を扱うときは大隅半島の木材を100%使用しており、自社で加工して建築工事を行っています。



1



2



3

- 1 木材は乾燥・養生・加工などの多数の工程を経て建具や床材、壁材に使用される
- 2 細かい凹凸を組み合わせる加工も可能
- 3 木材建具は温かみがあって人気がある



森を守る。未来へ託す。

森林を維持し次代につなぐためには、50～100年後の森林を想定しながら伐採し、産業へつなげる必要があります。大隅の林業を支える人々に、林業の目指すべき形について話を伺いました。



大隅森林組合
参事 岡富 博章 さん

森林に人の手を入れる

大隅森林組合は、苗木の生産から植林、森林の下草刈り、木材の間伐や主伐（木材にするための伐採）のほか林業の普及活動等を行っています。さらに近年、新型コロナウイルス感染症の影響で北米での住宅需要が伸び、国産材の需要が高まっていることから、多くの仕事をいただいている状況です。豊かで健全な森林の機能を維持しつつ次代へ引き継ぐためには、人の手を入れることが非常に大切です。例えば下草刈りや間伐を行うことで、植えた木の成長を促し強い森林を作ることができます。また、伐採を行った後は植林を必ず行い、持続可能な森林づくりを推進する必要があります。

の見た目が落ち着く、「香りがいい」などの意見をいただく度に、木のぬくもりのある住宅や木製品がこんなにも愛されているのだと実感しています。木をふんだんに用いた家は何年たっても木の良い香りが持続し、壁や柱もお客様と一緒に成長して味わいが出てきます。家を通じて大隅の皆様にも木に親しんでいただくとともに、木の良さを分かっていただけのような仕事をしたいです。

森林を次代に引き継ぐために

近年、所有者が分からない山に管理できていない山について、相談を多くいただきます。所有者が分からない森林は管理ができず、伐採から植林までのサイクルを回すことが困難になります。また、管理されない森林は、風水害での表土流出の恐れや二酸化炭素の吸収率も悪くなるなど、国土保全や環境への配慮の面でも、悪影響を及ぼします。

もしも先祖から引き継いだ森林を所有して管理ができていない場合は、まずは森林組合をはじめとした林業の事業者にご相談ください。皆さんの森林管理のお手伝いできればと思います。



1



2



3



4

- 1 主伐前の下準備として雑草を払う様子
- 2 スギの苗木を植林用になるまで育てる施設。40cmを超えた段階で植樹が可能になる
- 3 主伐後の現場で植林を行う様子
- 4 植えた苗木は雑草の高さを超える程度に成長するまで下草払いが年に数回行われる



NPO法人おのおすみ100年の森
代表 大竹野 千里 さん

価値の高い大隅の森林

NPO法人おのおすみ100年の森は、大隅半島に位置する林産事業体と関連企業が協力し、森林の適正な管理と森林の価値の創造を行うことで、100年後に残る森づくりを進めることを目的とした団体です。

大隅地域全体の森林の割合は63%で、広範な森林面積を持っています。さらに、針葉樹林と広葉樹林が混ざった森林というのは珍しく、生態系の面でも木材としての価値の面でも注目されている森林です。



1



2



3

- 1 フィールド整備を子どもたち自身で行う様子
- 2 シイタケのコマ打ち体験
- 3 製材工場見学の様子

森林を受け継ぐために必要なのが、子どもにも林業などを通して木に触れてもらう「木育」です。子どもにも森林の役割や木製品の素晴らしさを知ってもらい、木材の利用促進や担い手の育成など、森林の循環的な利用を促すことができます。

デジタル社会の現代だからこそ、ICTを活用した技術革新が進み、林業の生産性や森林の価値は上がっていくと思います。今後は森林環境譲与税等の活用について、行政と一緒に模索できればと思います。